

(実践報告・調査報告)

海外大学コーオペ教育プログラムの事例報告  
—キャリア形成支援教育体系化WG活動の一環として—

中西 佳世子

高等教育フォーラム 第4号抜刷 平成26年3月

## 海外大学コーオプ教育プログラムの事例報告 —キャリア形成支援教育体系化WG活動の一環として—

中西 佳世子<sup>1</sup>

京都産業大学ではコーオプ教育の概念を核にしてキャリア形成支援教育に力を注いできたが、2012年度、キャリア教育開発センター運営委員会はキャリア形成支援教育体系化ワーキンググループ(以下、キャリア体系化WG)を立ち上げた。このキャリア体系化WGの目的は、キャリア形成支援教育科目の内容をさらに充実させること、科目間の相互関連性をより明確にすることである。そして第I期では、学生がより体系的に履修できるようにプログラムの全体像を分かりやすく提示することを重要な課題として掲げた。本調査はこのキャリア体系化WGのプロジェクトの一環として行ったものである。

本調査では、大学の公式ウェブページの資料をもとにして、カナダのウォータールー大学、イギリスのサリー大学、アメリカのドレクセル大学におけるコーオプ教育プログラムの事例をまとめた。基本的な調査項目として1. 大学理念とコーオプ教育の関連 2. 学部カリキュラムとコーオプ教育プログラムの関連 3. 学生生活におけるコーオプ教育プログラム 4. コーオプ教育プログラムの運営などを設けた。大学ウェブページで提供される情報には、実用的な最新のデータだけでなく、大学、学生、保護者、協賛企業を結ぶネットワークの構造や情報共有の手法が含まれる。これらの情報には、各大学のコーオプ教育プログラムの背景にある社会的文化的要素が色濃く反映されており、日本におけるコーオプ教育の普及のヒントがあると思われる。

キーワード: コーオプ教育、海外事例、キャリア形成支援教育体系化

### 1. はじめに

本調査は、2012年度に京都産業大学のキャリア教育開発センター運営委員会で発案され、発足したキャリア形成支援教育体系化WG(以下キャリア体系化WG)におけるプロジェクトの一環として行った。このプロジェクトでは各キャリア科目の内容、目的、各科目間の関連を再検討し、18のキャリア形成支援科目(2012年度)<sup>1</sup>を再編成して、学生の目線で分かりやすく表示することをI期目の重要な課題の一つとして掲げた。この課題に鑑みて、本調査は海外大学におけるコーオプ教育<sup>2</sup>プログラムの公開情報をもとに、それぞれのプログラムが大学カリキュラムの体系の中でどのように位置づけられているか、そしてそのプログラムがどのように提示されているかを読み取ることに主眼を置いた。本学は、キャリア形成支援教育の核にコーオプ教育の考え方を据えており、これまでもWACE<sup>3</sup>の会員として海外コーオプ教育プログラム

の事例研究を継続し、キャリア形成支援教育プログラムにその成果を取り入れてきた経緯がある。本調査はそうした取り組みに新たな学術的知見を加えるというよりは、キャリア体系化WGのプロジェクトの目的に特化して情報の整理を試みたものであることをまずお断りしておきたい。

本調査では主に2012年度に公開されていた各大学の公式ウェブページの情報を調査資料とした。こうした情報は年度の移行やプログラムの改善などに伴って頻繁に更新され、アクセスが制限されているケースも多々ある。またウェブページのインターフェイスは各大学で大きく異なり、学部、学科で独自に案内を発信している場合もあり、正確に大学間の比較をするのは容易ではない。しかし、大学の公式ウェブページは、専門家や研究者にではなく、初めてコーオプ教育プログラムを履修しようとする学生、その保護者、あるいは協賛企業や地域社会を対象として、

<sup>1</sup>京都産業大学 文化学部、キャリア教育開発研究センター運営委員

基本情報を体系的に分かりやすく発信することに主眼を置くものである。こうしたことを考慮すれば、ウェブページはキャリア体系化WGで掲げた「科目群の体系化をわかりやすく表示する」という目的に合う情報源だと思われる。

本調査ではコーオペ教育プログラム(大学により名称は異なる)で定評のある、カナダのウォータールー大学、イギリスのサリー大学、アメリカのドレクセル大学を取り上げた。<sup>4)</sup>基本的な調査項目として、1. 大学理念とコーオペ教育の関連 2. 学部カリキュラムとコーオペ教育プログラムの関連 (学部教育との関連、成績評価と単位認定、学位の種類など) 3. 学生生活におけるコーオペ教育プログラム(授業料、給与など) 4. コーオペ教育プログラムの運営(履修登録方法、成績報告、企業面接など)を設けた。

本調査では、実用的な最新のデータだけでなく、大学、学生、保護者、協賛企業を結ぶネットワークの構造や情報共有の手法などの情報も得られた。また、各大学のコーオペ教育プログラムの背景にある社会的文化的要素が色濃く反映されていることも見てとれた。こうした側面は日本におけるコーオペ教育普及の参考となるだろう。

## 2. ウォータールー大学の事例

### 2.1. 大学の理念とコーオペ教育

1957年に設立されたカナダのオンタリオ州にあるウォータールー大学は学部生29000人、院生4800人を有する。ここでは大学教育の基盤となる6つの柱の一つとしてコーオペ教育を位置付けており、その目的として、変化する世界の中で学生が自らの可能性を見出せるようにすること、学問と就業の橋渡しを行うこと、いかなる場でも学びと成長と貢献の精神を持って物事に挑戦する学生を育成することを掲げている。また、大学が果たす社会的役割という観点から、コーオペ教育への取組とキャリア開発において刷新的かつグローバルなリーダーシップを発揮することで、ウォータールー大学を学生や企業の選択肢の最上位となる大学にすると宣言している。

コーオペ教育プログラムには16000人以上の学生が登録し、その就業から得る総収入は1.9億カナダドルに及び、協賛企業の登録数は28000、そして卒業後雇用率94%を達成している。このような成果を上げるためにはコーオペ教育の質の保証が不可欠であろう。

カナダでコーオペ教育プログラムを導入する大学は、その質の保証のためにカナダコーオペ教育協会(CAFCE)が定める次の基準を満たす必要がある。1. 学びの場

としての就業環境を整える 2. 生産的な仕事を行う 3. 報酬を得る 4. 雇用者の評価を得る 5. 大学在籍期間の30%以上の就業期間を確保する。

ウォータールー大学で特徴的なのはこれらの評価基準の順守を監査するシステムとして、各学部の学生代表で構成されるコーオペ学生審議会(Co-op Students' Council)を設置している点である。CSCの議長は学生連盟の教育部長(vice-president, Education)が務め、一方、コーオペ教育プログラムの代表者もCSCの評議会に参加する。CSCはコーオペ教育プログラムのポリシーと手続きを学生に周知させる働きを持つとともに、CSCを通して学生側の意見をコーオペ教育プログラムに反映させる機能を持つ。

### 2.2. 学部カリキュラムとコーオペ教育プログラム

ウォータールー大学では3 Semester制(秋9-12月、冬1-4月、春5-8月)を採用している。通常、1学年を2 Semesterとし、連続する8カ月間を履修する。一方コーオペ教育プログラムを履修する場合は、1期(4カ月)につき少なくとも12週間の就業期間(work term)が、各学部の規定に従って既存のSemesterの中に組み入れられる(図1参照)。大学在学期間の30%以上という基準を満たすためには数回の就業期間を挟むことになり、コーオペ教育プログラムでは通常5年の在学期間となる。2011年度のスケジュールは下記のとおりである。

2011年度

秋学期	8月29日～12月23日	就業相当期間
	9月12日～12月5日	通常授業期間
冬学期	1月2日～4月27日	就業相当期間
	1月3日～4月2日	通常授業期間
春学期	4月30日～8月24日	就業相当期間
	5月1日～7月25日	通常授業期間

学生がコーオペ教育プログラムを履修する際の基本的なきまりとして次のものがあげられる。

1. 最終授業期間(4B)の前に就業期間を終了し、レポートを提出する。
2. 全カリキュラムの最初のSemesterと最終のSemesterはオンキャンパスであること。
3. コースをやむをえず変更する場合は変更する学期の1カ月前に申し出る。ただし、就業期間で全カリキュラムが終了する場合、8カ月以上の就業期間になる場合、あるいは選択必修科目等が受講できなくなる場合、はコース変更不可となる。
4. 各学部の履修要件を満たせない場合はコーオペ教

育プログラムへの参加は中止となる。

成績評価は学部主体で行われる。就業レポートやコー  
 オプ学士号取得にかかる課題や評定についてのガイドラ  
 インも各学部で決定し、学部アドバイザーが担当のコー  
 オプ学生を指導する。コーオプ教育プログラムの修了者

には「コーオプ」の称号が学士号に付与される(Co-op  
 Bachelor of Computer Scienceなど)。また、その履修条件  
 として、成績基準が通常より厳しく設定されており、この  
 プログラムを履修できること自体が優秀さの証明になっ  
 ているケースがある(図2参照)。

Plan	秋	冬	春	秋	冬	春	秋	冬	春	秋	冬	春	秋	冬	春	WT	WR	PD
Computing and Financial Management	1A	1B	●	2A	●	2B	●	3A	●	3B	●	4A	●	4B		5	〇	5
Mathematical Physics	1A	1B	●	2A	●	2B	●	3A	●	3B	●	4A	4B		5	〇	5	

凡例

WT	卒業に要する最少期間数(4 credited work report) 各期間における雇用者評価も卒業要件
WR	Co-op の称号に必要な work report (WR) の単位数
PD	Co-op の称号に必要な professional development (PD) の単位数
●	就業期間
〇	Three (3) work report credits (in addition to PD 2) PD =Professional Development
Φ	Three (3) work report credits (in addition to PD 20 and 21)

図1. Mathematicsにおけるコーオプ教育プログラム履修例

**Table I - Degree Requirements**

Requirements	Four-Year Honours Plans		Double Degree Plans	
	Co-op	Regular	Co-op	Regular
Minimum course units (excluding PD courses and co-op work-term courses)	20.0	20.0	26.0	26.0
Minimum co-op work-term course units	2.5*	0	2.0	0
Minimum PD course units	2.5	0	2.5	0
Minimum work reports	4	0	4	0
Minimum non-math units	5.0		12.0	
Minimum Cumulative Average (CAV)	60%		60%	
Minimum Major Average (MAV)			N/A	
<ul style="list-style-type: none"> <li>All AMATH and PMATH plans, including Mathematical Physics</li> <li>ACTSC plans, including Mathematical Finance</li> <li>All other plans</li> </ul>	65%	70%	60%	
Maximum excluded/failed course units (excluding PD courses and co-op work-term courses)	3.0		3.0	
Maximum allowed units of course attempts (excluding PD courses and co-op work-term courses)	25		31	
Minimum number of full-time terms	8	7	9	
English Writing Skills	All degree candidates must satisfy an English Writing Skills Requirement. See below.			

\* The minimum co-op work term course units for the Chartered Accountancy and Teaching plans are 2.0.

図2. コーオプ教育プログラム履修に必要な成績、及び学位取得に必要な単位数の例

### 2.3. 学生生活とコーオプ教育プログラム

次にコーオプ教育プログラムを履修した学生の学費や生活費、また就業による収入などについて見ていきたい。

学費は履修するコース数に応じて支払うことになっており、コーオプ教育プログラムについても就業期間の一期分を1コースとして学費を納める。就業期間の学費は641ドルで、学内で履修する場合の1コース分と同程度に設定されている。但し2年次以降は就業レポートの費用が加算される。(図3参照)

またコーオプ教育プログラムでは就業期間に報酬を受け取ることが条件となっているが、実際にどれぐらいの

収入を得ることができるのだろうか。収入は就労先の職種や労働時間数などによって異なる。図4は2013年の就業期間の平均週給例である。例えば建築専攻の場合Work term 1の平均週給が約620ドルだが、コーオプ1期の就業期間を16週とすると、登録料641ドルを支払い、約9920ドルの収入が得られる計算になる。また表4が示すように、概ね就業経験を重ねるほど賃金は増加しており、コーオプ教育プログラムにおける就業体験によって学生の労働力に付加価値が付き、企業の立場からみても、コーオプ教育プログラムで能力を高めた学生は貴重な労働力であることがわかる。

<i>Program/Level</i>	<i>Price per 0.5-unit course for the first four courses</i>	<i>Fee for the fifth course</i>	<i>Maximum tuition fee per term</i>	<i>Work report marking fee</i>	<i>Co-op fee</i>	<i>Incidental fees</i>	<i>Total fees</i>
<i>Regular Year 1</i>	\$657.00	\$311.00	\$2,939.00	-	-	\$234.09	\$3,173.09
<i>Regular Year 2</i>	\$657.00	\$311.00	\$2,939.00	-	-	\$234.09	\$3,173.09
<i>Regular Year 3</i>	\$654.00	\$309.00	\$2,925.00	-	-	\$234.09	\$3,159.09
<i>Regular Year 4</i>	\$650.00	\$310.00	\$2,910.00	-	-	\$234.09	\$3,144.09
<i>Co-op Year 1A</i>	\$657.00	\$311.00	\$2,939.00	-	-	\$481.37	\$3,420.37
<i>Co-op Year 1B</i>	\$657.00	\$311.00	\$2,939.00	-	-	\$481.37	\$3,420.37
<i>Co-op Year 2A</i>	\$654.00	\$309.00	\$2,925.00	\$14.00	\$641.00	\$481.37	\$4,061.37
<i>Co-op Year 2B</i>	\$654.00	\$309.00	\$2,925.00	\$14.00	\$641.00	\$481.37	\$4,061.37
<i>Co-op Year 3A</i>	\$650.00	\$310.00	\$2,910.00	\$14.00	\$641.00	\$481.37	\$4,046.37
<i>Co-op Year 3B</i>	\$650.00	\$310.00	\$2,910.00	\$14.00	\$641.00	\$481.37	\$4,046.37
<i>Co-op Year 4A</i>	\$647.00	\$310.00	\$2,898.00	\$14.00	\$641.00	\$481.37	\$4,034.37
<i>Co-op Year 4B</i>	\$644.00	\$307.00	\$2,883.00	\$14.00	\$641.00	\$481.37	\$4,019.37

図3. コーオプ教育プログラム履修と学費(2013年)

Co-op programs	Work term 1	Work term 2	Work term 3	Work term 4	Work term 5	Work term 6
Applied Health Sciences	Average: \$498.35 Range: \$384.38-\$693.75	Average: \$523.43 Range: \$384.38-\$779.25	Average: \$536.90 Range: \$384.38-\$888.89	Average: \$581.73 Range: \$384.38-\$950.63	Average: \$603.41 Range: \$412.50-\$862.50.	Not applicable
Architecture	Average: \$620.60 Range: \$450.-\$750.	Average: \$646.87 Range: \$450.-\$850.	Average: \$706.17 Range: \$562.50-\$862.50	Average: \$701.47 Range: \$562.50-\$881.25	Average: \$701.73 Range: \$562.50-\$881.25	Average: \$748.10 Range: \$675.-\$862.50

図4. コーオペ教育プログラム就業期間の週給例 (2013年)

## 2.4. コーオペ教育プログラムの運営

ウォータールー大学ではコーオペ教育プログラムとキャリア関連サービスの運営機関である、コーオペ教育&キャリアセンター (Co-operative Education & Career Action) CECAを設置している。センターでは140人のスタッフが働き、4,500の企業、16,500人のCO-OP学生、8,000人の院生、15,000人の卒業生等、総数30,000人のコミュニティの核となり、大学、学生、企業を結ぶさまざまなサービスを提供している。その主な内容は就業期間における職探しから雇用までのサポート、協賛企業の開拓、保護者との連絡、コーオペ学生への就業事前ガイダンス、コーオペ教育プログラムや求職システムの改善など多岐にわたっている。

こうした大きな母体を持つコミュニティを繋ぎ、多様な活動を支えるのが、CECAが管理運営するオンラインシステムJobMineである。学生はJobMineで提供されるデータベースを閲覧し、給与レベルや雇用状況を参考に就業希望先を探し、オンライン上に履歴書をアップする。企業もまたJobMineで学生の履歴書等を閲覧し、雇用したい学生を探して面接の通知を送る。JobMineは個々の学生を担当するアドバイザーとの連絡や相談にも用いられ、自分の成績や進捗状況をチェックしたりすることができる。

コーオペ教育プログラムを初めて履修する学生には、

どのようにして就業先を見つけたらよいのか、単位認定の評価はどのようになされるかなど不安が多いと思われる。CECAでは、就業先を決めるまで、就業を始めるまで、就業中、就業後ときめ細かに分けて、学生にサービスを提供している。例えば、学生が就業先を決定するまでのサポートとしては、個人面接、グループ面接、スカイプ面接など、状況に応じて学生と企業の面接の手配をする。また、個々の学生を担当するキャリア・アドバイザーも割り当てる。さらに履歴書やカバーレターの書き方、面接のポイント、自己分析、職選びなどのワークショップやジョブフェアなどの開催情報をJobMineで発信する。

就業先が決まった学生には、就業期間を通して個々の学生が相談することのできるスチューデント・アドバイザーを配置する。またCECAは、雇用者との契約内容の確認方法、雇用者との信頼関係の築き方、大学の倫理規定(退学などの罰則も含む)の周知、遠隔地で就業する場合の住居情報、通勤費用の割引制度などの紹介なども行う。就業中、就業後は、スチューデント・アドバイザーが、学生の単位認定にかかる就業達成目標の作成や改訂のアドバイスを行い、就業レポートの進捗チェック、雇用者評価のチェック、学部での学び(オンキャンパス)に戻る前のインタビューとその手配、コーオペ教育プログラムのコース変更、雇用の問題対処などの相談にも応じる。

この他にもCECAはスチューデント・アドバイザーの

養成、新たな協賛企業の開発、海外コーオペ教育プログラム、保護者へのサポート、優れた成果をあげた学生の表彰といった業務も担当している。

### 2.5. 大学組織図

最後に、各学部へのコーオペ教育プログラム担当者の配置と、大学におけるコーオペ教育プログラムの位置付

けが確認できる学部組織図(図5)と大学組織図(図6)を挙げておく。これらの図に示されるように、ウォーター大学では、コーオペを担当する専任を各学部配置するとともに、コーオペ教育&キャリアセンターを学長直結の組織として位置付けている。コーオペ教育プログラムを成功させるためには、こうした全学的取組が不可欠であろう。

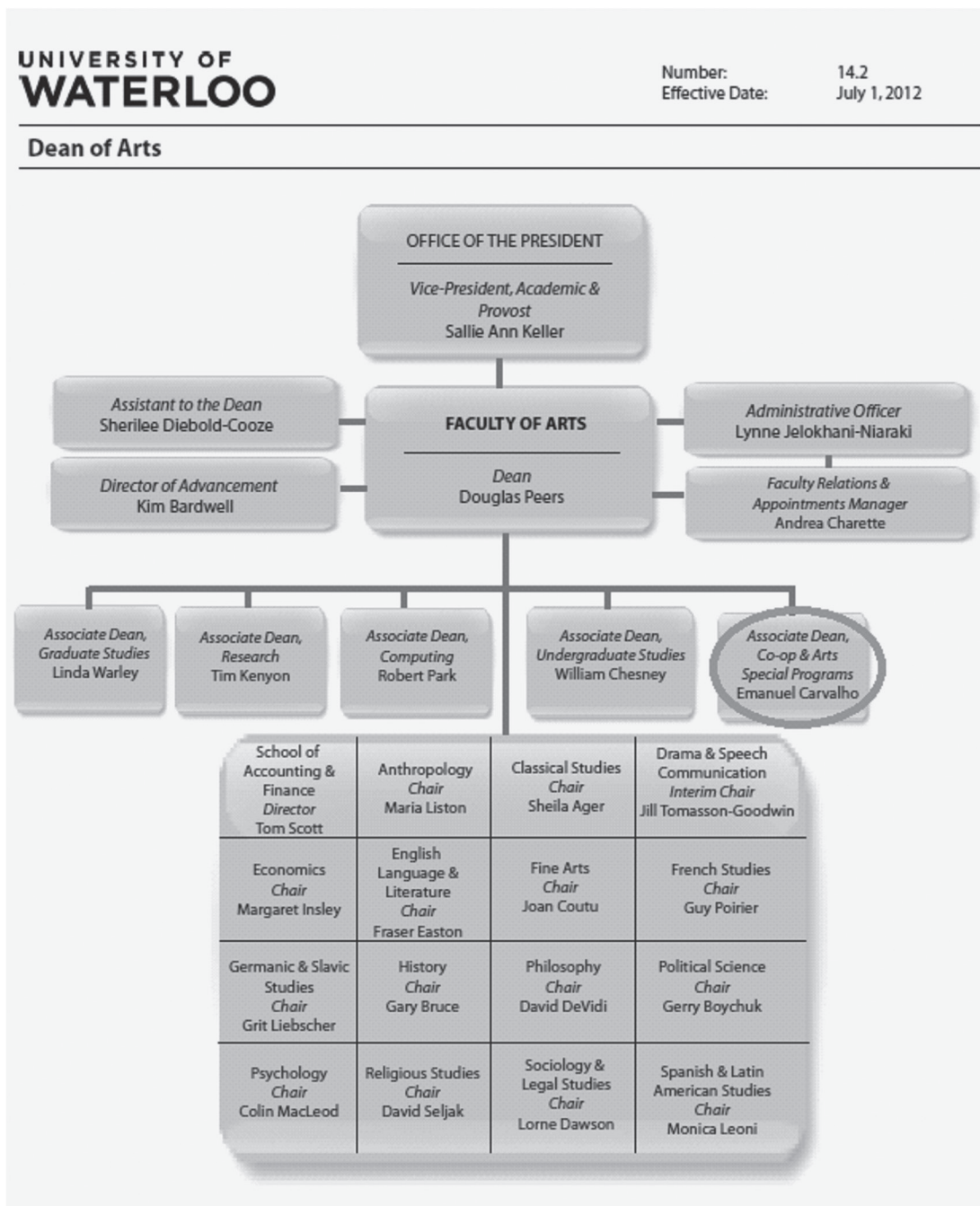


図5. 学部組織図

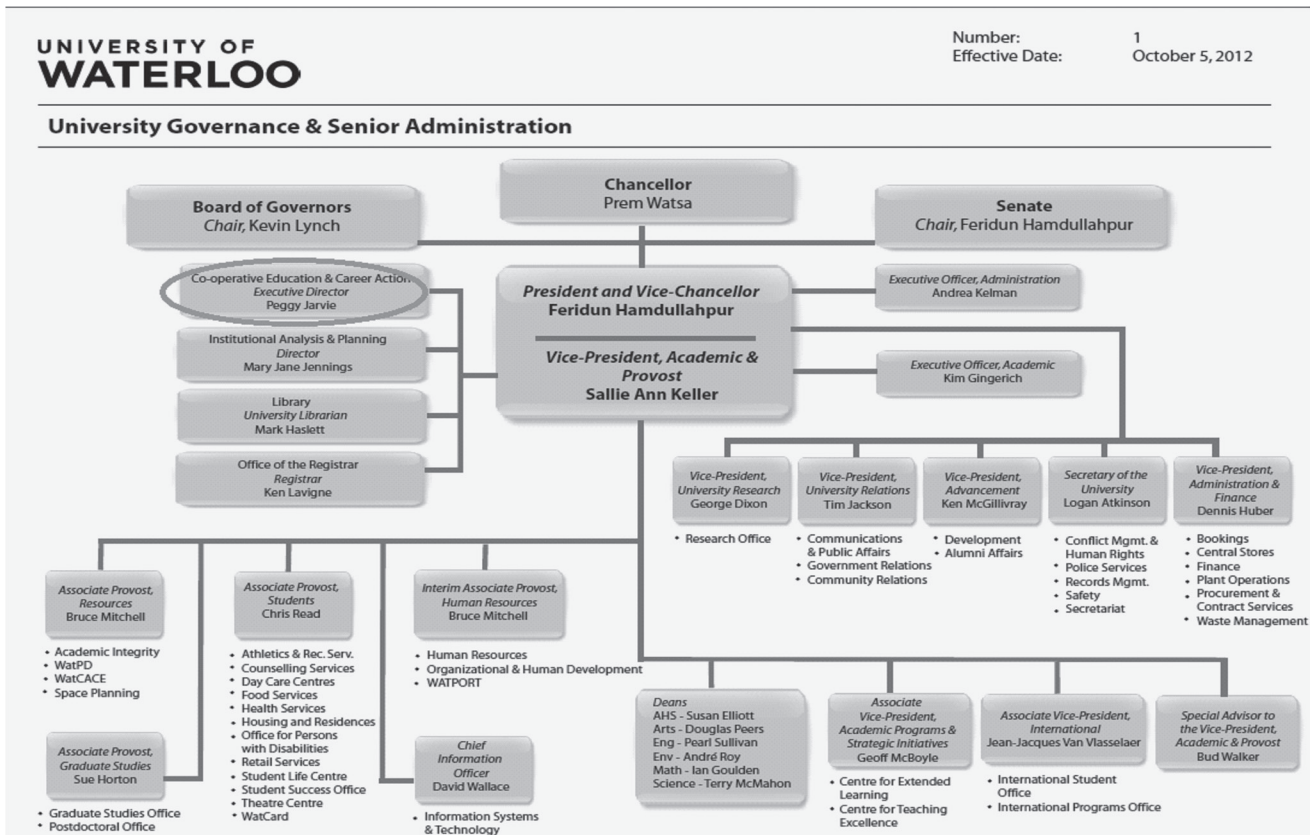


図6. 大学組織図

### 3. サリー大学の事例

#### 3.1. 大学の理念とコーオプ教育

1891年に専門学校として創立されたイギリスのサリー大学は、1966年に総合大学となり、現在15700人の学生を擁している。19世紀に始められたサリー大学のProfessional Training Year（以下PTY）は大学教育の一環として位置付けられており、このプログラムでの実社会経験を通して、学生が学術的・人間的潜在能力を高め、円熟した洞察力のある人間へと成長し、職場での変化への対応力を涵養することを目指している。

PTYは3年次と4年次の間に国内外でPlacementという一年間の実体験を組み込むものであるが、サリー大学も含めてイギリスではこうしたサンドイッチ方式が採用されている(田中、2013)。その体験先は企業だけでなく、収入を伴わない外国の大学での学びや公共施設でのボランティア的活動も含む。また、EU加盟国であることから海外就業の機会が多いが、この場合、学生はERASUMS (EU諸国内の大学交流機関)の支援を受けることができる。

PTYの統括組織としてProfessional Training Careers

Committee（以下PTCC）が設置されているが、プログラム内容決定、評価、運営などは学部が主体となって行っている。PTCCの下部組織として設置されている学生自治会はPTCCに代表を送り、就業期間後に行う匿名アンケートの調査結果を報告し、教職員、学生自治会、大学経営者間で情報を共有することでプログラムの改善を促す役割を果たしている。また、就労期間に学部のアドバイザーが学生を訪問し雇用者を交えた3者面談を行うなど、人対人という関係を重視するアナログ的手法がPTYの特徴であり、その教育の質保障に繋がっている。

#### 3.2. 学部カリキュラムとコーオプ教育プログラム

サリー大学では2 Semester制を採用しており、通常は3年間在学して卒業する。一方、PTYを含む場合は2年次と3年次の間に30週から12カ月のPlacement（就業期間）を置くことになり、4年の在学期間が必要になる。2011年度のスケジュールは下記のとおりである。

2011年度	
1 Semester	10/1-/2/1
2 Semester	2/4-6/14



年末年始休み 12/17-1/4  
 春休み 3/25-4/19  
 夏休み 6/17-9/27

各学部でPTYを含むコースを設定しており、必修・選択科目や単位認定などのガイドラインも各学部で策定する。例えば図7のEnglish Literatureの場合、3年次PTYを必修とする6つのコースを設けており、46週間の外国大学もしくは企業でのPlacementを体験することになっている。Placementには大学で行う無給のStudy Placementと企業で行う有給のWork Placementがある。学部ではPlacement Teamが設置され、国際企業とのコネクションを活かして、学位に適したPlacementを得られるように支援する。PTYを含む4年間を概観すると、まず1年次に専攻言語の文化・言葉に加えて、履歴書の書き方やプレゼンテーションテクニックを学び、2年次はPlacement Tutorとの個人面談、ワークショップ、セミナー、オンラインサポートを通して、就業先の選択、応募方法、履歴書の書き方、面接対策などに取り組む。また、4年次生の経験談を聞く機会が設けられ、海外生活に関する経費・住宅探しなどの具体的な問題にも目を向けていく。そして3年次でPlacementが始まると、学部付のVisiting Tutorが年3

回、学生を訪問して、進捗報告や問題対策などの相談にのったり、4年次にスムーズに大学に戻れるよう、成績認定の手配や卒論準備の支援をする。

Placementの評価は、就業内容や自己評価を報告する学生レポート、就業期間後に監督者が発行する2種類の評価書類、就業前後の二回にわたるセッションに基づく評価、をもとにVisiting Tutorが総合評価を行う。この評価は最終的な学士認定に反映されることになる。人文系の成績配分表(図8)には、3000語のレポートやVisiting Tutorの評価という項目があり、学生と教員の双方が時間をかけてPTYの評価に取り組む様子が窺われる。

多少重複するが、ここでサリー大学の全般的なPTYの流れについて確認しておきたい。二年次になると学生には学部でVisiting Tutorが割り当てられPlacementの行き先の相談にのる。Placementが始まると、Visiting Tutorは少なくとも2回、学生の就業先を訪れ、雇用者側の監督とも面談し、また最終的な評価も担当する。またPlacementで問題が生じた場合、Visiting TutorもしくはProfessional Placement Tutorが学生と就業先の監督者を交えて3者相談を行い、内容によっては、就業先の変更や中止を決定する。サリー大学ではVisiting Tutorによる学生訪問

## English Literature Degrees 2013

### Svaltext

As an English Literature degree student at Surrey, you will join an innovative, forward thinking school which benefits from staff expertise in delivering excellent programmes in literature, language, communication and the arts. Your degree will provide you with a strong grounding in different approaches and practices in English literature, before moving on to focus on contemporary and global literatures, creative writing or a wide range of other options.

### Degree programmes

DEGREE	UCAS CODE	DURATION	DEGREE INFO
BA (Hons) English Literature	Q320	3 years	KIS +
BA (Hons) English Literature	Q324	4* years	KIS +
BA (Hons) English Literature and English for International Communication	QP39	3 years	KIS +
BA (Hons) English Literature and English for International Communication	QP3X	4* years	KIS +
BA (Hons) English Literature and French	QR3C	4* years	KIS +
BA (Hons) English Literature and German	QR32	4* years	KIS +
BA (Hons) English Literature and Spanish	QR3K	4* years	KIS +
BA (Hons) English Literature with Creative Writing	Q3W8	3 years	KIS +
BA (Hons) English Literature with Creative Writing	Q3WV	4* years	KIS +

\* Programme includes a professional training year

図7. English Literatureで提供されるPTYを含むプログラム

Personal and Professional Development(45 credits)	Evaluation of Placement Learning (60 credits)	Transfer of Placement Learning (15 credits)
Getting a placement (33.3%) First stage review (33.3%) Presentation on Return Day (33.3%)	Visiting tutor reports (50%) Workplace supervisor final report (50%)	Final PTY 3000-word report (100%)

図8. 人文系の評価基準表

にウェイトを置いて多くの経費をかけている。PTYは単なる就業体験ではなく、あらゆる社会体験を含むという考えに基づき、オンラインシステムやマークシート方式などの効率的な手段に頼りすぎることなく、アナログ的手法にこだわりながら、全学的なシステムとしてPTYの成果を上げているといえる。

### 3.3. 学生生活とコーオプ教育プログラム

サリー大学での学費は年間9000ポンドであるが、Placementの年度の学費は1050ポンドに抑えられている。またPlacementで得られる収入としては、例えばコンピュータ学科の場合平均年額14,000ポンドである。サリー大学では海外大学への留学などの無給のケースもPTYプログラムに含んでいるが、海外PTYの場合はEU加盟国としてERASMUS GRANTの利用が可能である。

ERASUMS (European Community Action Scheme for the Mobility of University Students)はEU諸国内の大学交流機関で、ブリティッシュ・カウンシルが窓口となり、EU諸国での就学・就業に対して旅費・生活費を支援している。その期間は最低3か月から、就学の場合は最長1学年分まで、就業の場合は最長12か月まで認められている。また就学と就業を合わせて24か月以内となっている。この制度を利用するためには、少なくとも1年次を修了しており、進級の為の必修科目を修了していなければならない。また支給される金額は2010年の場合で1か月225ユーロで、保険料は大学側が負担するというものであった。

またPlacementを体験する学生は通常の労働者と同様の労働規定が適用される。雇用者は大学に対して、イギリスで制定されている安全衛生基準の順守を保障しなければならない。そして就労に際しては大学、学生、企業の3者間で就労契約書にサインする。

このようにサリー大学のPTYプログラムは単に職業

を体験するものではなく、学生が「市民」「労働者」としての「生活」を経験するものとなっている。「市民」「労働者」としての権利や義務を認識させることもPTYの教育に含まれるといえる。こうした考え方は学生に配布されるPTYのパンフレットにも反映されており、英国における労働者の権利、給与と控除を明記した給与明細を受け取る権利、24日の有給休暇を取る権利、不法な天引きの禁止、出産育児休暇を取る権利、納税の知識とアドバイスのサービス、他のEU諸国でこれらの権利が守られなかった場合の相談窓口などの情報が掲載されている。

### 3.4. コーオプ教育プログラムの運営

これまで見たように、サリー大学ではPTYの運営のウェイトは学部には置かれている。しかし、冒頭で述べたように、下部組織が連携して行うProfessional Trainingを統括監督するPTCC (Professional Training Careers Committee)が設置されている。下部組織には、面接、プレゼン、交渉法などさまざまなテーマのワークショップの提供や、キャリアフェア、ジョブフェアの企画案内、企業との連携や研究者のアカデミックポスト紹介、応募書類、履歴書、面接技術などのアドバイスを行うCareers Service、そしてPTCCに代表を送り、PTYプログラムに学生の声を反映させる学生自治会(Student Union)、さらに、海外就業の取り扱いを担当するInternational Relations Officeなどがある。

## 4. ドレクセル大学の事例

### 4.1. 大学の理念とコーオプ教育プログラム

アメリカのフィラデルフィア州にあるドレクセル大学の前身は1891年に設立され、1936年に工科大学に、そして1970年に現在の総合大学の形となった。現在は学生数25000人を有するアメリカで15番目に大きい私立大学である。1919年、最初期のモデルとして、大学教育と統合

されたコーオペ教育プログラムを導入した。ドレクセル大学ではコーオペ教育プログラムの目的として、学生がトップクラスの大学院で学ぶ基礎を築くこと、学費と生活費を得る事、卒業後に高い給料が得られることを掲げている。

ドレクセル大学のコーオペプログラムには1種類の就業を体験できる4年コースと、3種類の異なる就業を体験できる5年コースが用意されており、年間4200人が参加している。コーオペ教育プログラムでは、学生の専攻に関連するもので学生の興味と能力に合致した内容の仕事であること、企業の日常業務に不可欠なプロジェクトに携わること、基本的に有給雇用であることが就業の条件となっている。41州1500の企業が雇用者の登録しており、また、45ヵ国への海外派遣、研究を目的とするプログラムも提供している。

ドレクセル大学の公式サイトでは企業向けのページを設けており、学生の質の高さを次のような形でアピールしている。1. コーオペ学生は学士号取得に雇用者の評価が必須であること 2. 学生は、単なるアルバイトではなく6か月継続する安定した労働力であること 3. 学生は事前に必修のオリエンテーションクラスを受講していること 4. 仕事に関係する専門教育を受けていること

5. フルタイムの学生が対象であり、彼らにはドレクセル大学の学則・規約を順守する義務があることなどである。

ここでは、規律を守り専門知識を有するドレクセルのコーオペ学生を「質の高い労働者」として雇用者側にアピールしている。良い学生を確保したいと願う雇用者側の競争があれば、学生側はより環境・条件の良い職場で就業することができる。ここにはコーオペ教育プログラムの質を保障するための戦略が見てとれる。

#### 4.2. 学部カリキュラムとコーオペ教育プログラム

ドレクセル大学では3セメスター制を採用しており、通常の在学期間は4年であり、2011年のスケジュールは下記のとおりである。

2011年度

秋学期	9/14-12/10
冬学期	1/9-3/19
春学期	4/2-6/15
夏学期	6/25-9/8

(通常3セメ×4年在学)

一方、コーオペ教育プログラムには4年コースと5年コースがある(図9参照)。この図が示すように、4年コースでは3年次に2セメスター連続(6か月間)の就業期間が一度入る。また、5年コースは、2年～4年次にそれぞれ2セメスター連続の就業期間が入り、合計3度の就業体験を持つことができる。

コーオペ教育プログラム履修の流れは次のようになっ

#### One Co-op Option:

*This option takes four years to complete*

	FALL	WINTER	SPRING	SUMMER
Year one	●	●	●	◆
Year two	●	●	●	●
Year three	■	■	●	●
Year four	●	●	●	

#### Three Co-op Option:

*This option takes five years to complete*

	FALL	WINTER	SPRING	SUMMER
Year one	●	●	●	◆
Year two	■	■	●	●
Year three	■	■	●	●
Year four	■	■	●	●
Year five	●	●	●	

#### Co-op Key:

● On-campus study	■ Co-op experience	◆ Vacation
-------------------	--------------------	------------

図9. 二つのタイプのコーオペ教育プログラム

実践報告・調査報告

ている。まずプログラムに登録するためには、フルタイム（1学期で12単位）学生であり、2学期までに24単位取得済みでなければならない。この条件を満たしている学生はコーオプ説明会に登録する。そこで担当コーディネーターが割り当てられる。その後、10週間のCO-OP101を受ける。この事前セミナーでは、就業先の見つけ方、コースの修了条件（レポート、面接）などについて学び、コーディネーターが修了認定を行う。次にSCDC（Drexel's Steinbright Career Development Center）のオンラインシステムを用いて、データベースから、職種、GPAなどの条件に合う就業先を探す。希望の就業先にオンラインで履歴書を提出して面接の申し込みを行う。名刺の準備、礼状の送付、面接、に関するアドバイスもオンラインで提供される。雇用者から応募した学生の就労能力ランキング（給与が示されている）が届く。給与内容や就業時間などの条件を見て同意すれば雇用契約にすむ。雇用が決まると、

その企業のポリシーや規則、連絡や報告の方法を学んで就業に備える。問題が生じたらコーディネーターに相談する。また終了までに雇用者に就業評価（Employment Summary & Planner）をオンライン上で記載して貰う必要がある。コーディネーターとの面接で、雇用者レポートの確認がすむと、2期目の就業が承認され、それに備えて履歴書を更新する。

二つのコーオププログラムでは各学年で取得すべき累積単位数が決められている（図10参照）。これに加えてコーオプ教育プログラムを修了するには各学部が定めるDrexel Co-op Units（DCUs）を取得する必要があるが、その必要単位数はプログラムによって異なり、32単位～96単位まで幅がある。

例）Arts & Sciencesの場合

4 Year Program (2 Co-op Terms, 32 DCUs)

5 Year Program (6 Co-op Terms, 96 DCUs)

4 Year Co-op Plan		5 Year Co-op Plan	
Classification	Credits	Classification	Credits
Freshman	0-39.5 credits	Freshman	0-39.5 credits
Sophomore	40-96 credits	Sophomore	40-70 credits
Junior	96.5-129.5 credits	Junior	70.5-96 credits
Senior	130-999 credits	Pre-Junior	96.5-129.5 credits
		Senior	130-999 Credits

図10. コーオプ教育プログラムで取得する単位数

DCUsの取得には、CO-OP101（就業事前クラス）の受講、学生就業報告と雇用者評価の提出、コーディネーターとの面接などが必要となる。学生報告と雇用者評価はそれぞれの項目を5段階評価で判定する形になっており、その内容は専門性を問うというよりは、協調性やリーダーシップなど、いわゆる「社会人力」を評価するものになっている。専門性は大学で学び、就業体験では「社会人力」を身に付けるという方向性が窺われる。また就業体験の評価は次のように成績に反映される。

例1）200715; COOP 201; CO-OP EXPERIENCE / General Motors 16 DCU

→16単位取得、ジェネラル・モーターズで6か月就業

例2）200725; COOP 301 CO-OP EXPERIENCE / General Motors 16 NF

→NF（Not Finalized）単位未修得。就労記録はあるが、コーディネーターとの面接、雇用者評価（Employment Summary & Planner）の提出がされていない。

例3）200735; COOP 201 CO-OP EXPERIENCE /

Failed Work Term 16 NCU

→NCU（No Credit Units）コーオプに未登録

SCDC（オンラインシステム）でCO-OP記録が無く、Work Termが不合格になっている。

### 4.3. 学生生活とコーオプ教育プログラム

学費と登録費の総計は図11にあるように、コーオプ期間は1セメあたり790ドルの登録費のみを納入する。5年コースでは合計約175000ドルを支払うが、4年コースの場合、コーオプ期間は2セメなので、合計は約173000ドルである。一方、就業1期間（6か月）の平均給与は約16000ドル（2013年は14500ドル）と報告されている。専攻によって金額も変わるが、図12のケースでは、おおよそ週に500—600ドルの収入を得ている。ドレクセル大学ではコーオプ教育プログラムの目標の一つとして学費と生活費を得ることと明言しているが、就業による収入である程度の経費を賄えることがわかる。

5 Year Three Co-op Option

Billing Schedule					
	Fall	Winter	Spring	Summer	Annual
1st Year	Tuition \$14,378	Tuition \$14,378	Tuition \$14,378		Tuition \$43,134
	Fees \$790	Fees \$790	Fees \$790		Fees \$2,370
2nd Year	Fees \$790	Fees \$790	Tuition \$14,378	Tuition \$14,378	Tuition \$28,756
			Fees \$790	Fees \$790	Fees \$3,160
3rd Year	Fees \$790	Fees \$790	Tuition \$14,378	Tuition \$14,378	Tuition \$28,756
			Fees \$790	Fees \$790	Fees \$3,160
4th Year	Fees \$790	Fees \$790	Tuition \$14,378	Tuition \$14,378	Tuition \$28,756
			Fees \$790	Fees \$790	Fees \$3,160
5th Year	Tuition \$14,378	Tuition \$14,378	Tuition \$14,378		Tuition \$43,134
	Fees \$790	Fees \$790	Fees \$790		Fees \$2,370

図11. 5年コースの場合の学費と登録費(2013年)

or call 215-895-2100.

\*The averages below are based on weekly co-op salaries.

College of Arts & Sciences			
Major	20th%	Average	80th%
Anthropology**	n/a	n/a	n/a
Biological Sciences	\$492	\$548	\$600
Chemistry	\$492	\$600	\$644
Communications*	\$400	\$525	\$620
Criminal Justice**	n/a	n/a	n/a
English*	\$480	\$548	\$600
Environmental Science	\$492	\$534	\$572
Environmental Studies*	n/a	\$492	n/a
General Hum & Soc Science*	n/a	\$680	n/a
History*	\$420	\$497	\$560

図12. 就業期間の週給の例

4.4. コーオペ教育プログラムの運営

ドレクセル大学ではDrexel's Steinbright Career Development Center (SCDC)がコーオペ教育プログラムの運営を担っている。雇用企業のデータベースを提供して雇用者と学生との最適なマッチング、キャリア・カウンセリ

ングの実施、履歴書チェックや面接対策などのワークショップやジョブフェアの開催、企業と学生の面接を設定するなど、コーオペ期間を通して学生のサポートを行っている。また、キャリア図書館の管理運営や海外コーオペ、研究コーオペ、大学院コーオペプログラムの運営も担っている。コーオペ教育プログラムのカリキュラムは学部が決定するが、プログラムの運営という点ではSCDCに大きなウェイトが置かれている。これらの多彩な活動にはSCDCが運営するOnlineシステムがフルに活用されている。ドレクセル大学は、実際的で明確なコーオペ教育の目的を宣言しているが、そのプログラム内容も同様に、できるだけシンプルに分かりやすく、かつ、IT技術を十分に活用してシステムティックに運営しようとする姿勢が感じられる。

5. まとめ

この調査では各大学の事例を具体的な項目を設けて比較することで、大学間の相違やそれぞれの機関における工夫や実践を知ることができた。不十分ながら、キャリア形成支援科目体系化WGプロジェクトの一環としての内容をある程度備えたレポートになったのではないかと思う。一方、この調査を進める中で、当初設定した比較項目とは別に浮かび上がってきたのが、各大学の取り組みを特色づけている文化的背景である。大学におけるキャリア教育が社会との繋がりを重視する以上、その大学が位置する地域や時代の文化的社会的特質がキャリア教育プログラムに色濃く反映されるのは当然のことといえる。またそうでなければ社会と連携して行われるキャリア教育プログラムが継続発展することは望めないであろう。ここでとりあげた各大学も、長年の試行錯誤の内に現在のシステムにたどり着いたに違いない。こうした観点はコーオペ教育プログラムを考える

際に重要であると思われる。そこで、各大学のプログラムを調査する中で垣間見ることのできた文化的背景の考察をここでい本調査のまとめとしたい。

イギリスのサリー大学では、就業体験に際して学生が留意すべき点として提示されるものに労働環境や納税意

識などの「労働者としての権利と義務」といったものがあり、就業体験を一市民としての自覚を促す機会と位置付けている。また、就業地域はEU各国に及んでおり、「生活」に密着した海外就業は単なる職業的体験というよりは、文化的多様性を体験する機会と捉えられている。また収入を伴わない学びもプログラムの一環である。さらにこのプログラムの運営は学部の裁量による部分が大きく、極めてアナログ的に手間暇をかけて実施しており、人対人の繋がり、思考を言語化する能力の涵養を重視している印象を受ける。サリー大学では、全人教育としての就業プログラムということを理念として掲げおり、その理念がこうした形に還元されているといえよう。こうした方向性でキャリア教育の理念が設定される背景には、ヨーロッパの長い歴史が育んだ成熟した文化があるのではないだろうか。法体系も宗教も言語も異なる他国の文化的他者が隣接する状況の中でお互いに良好な社会関係を築くには、一見効率的なデジタル的手法よりも、アナログ的な対人関係の中で意思を根気よく言語化して伝達する能力を持つことが、結局手堅い方法であり、そこには全人教育が欠かせないといったヨーロッパ的経験がサリー大学のプログラムに反映されているように思われる。

一方アメリカのドレクセル大学のプログラムは極めてシンプルにわかりやすくシステムティックに運営されている。ホームページにおける情報発信の方法も洗練されており、まさに全体がデジタル化されている印象を受けた。キャリアセンターは大規模のスタッフを擁し、就業期間の成績管理や問題処理などを受け持ち、またキャリアセンター独自に授業を提供している。そして、就業の為の事前教育を受け、専門知識を持ち、大学や企業の倫理規定を守る優秀な学生を、質の良い労働力として確保できるメリットを企業側にアピールして「学生の質保障」を行う。ここには、優秀な学生を獲得しようとする競争を雇用者側に生み出すことが「就業の質保障」に繋がるという考え方があろう。シンプルなシステムを構築し、学生をある種の型にはめる手法には、多様な環境で育った若者を「大学倫理」に従わせ「企業文化」へ順応させる意図があるように思われる。アメリカ社会が、多様な文化背景と価値観を受容し、権利の主張を認め、「自由意思」を醸成する社会だとすれば、その価値観の中で育った若者を、効率良く利益を追求することを至上命令とする企業社会の価値観に馴染ませるためのキャリア教育を行う必要があるということではないだろうか。その意味ではサリー大学とは反対方向に向かっているのが興味深い。ドレクセル大学は評判の高い大学院への進学を目指すキャリア教育など

多彩なプログラムを提供しており、決して没個性を目指すものではないが、現実問題として就業体験とは第一義的に収入を得る機会でありプラクティカルなしくみが機能している。

カナダのウォータールー大学は、大雑把なまとめかたをすれば、サリー大学とドレクセル大学の間に位置するといえる。学部主体でコース毎に様々なカリキュラムを提供しており、成績評価基準なども細かく学部で規定されている。こうした複雑なシステムを運営するために、オンラインなどのデジタル化も進み、キャリアセンターが大きな役割を果たす一方で、学部にもコーオプ教育担当者が配置されており、学部学生のアドバイザーを教員が務めるなど学生と教員の関係も重視している。またウォータールー大学の特徴として、カナダのコーオプ協会のガイドラインを踏襲していることを質保障として掲げていることが挙げられる。プログラムの修了者にはコーオプの称号が授与されるなど、国内でコーオプ教育が定着しており、その社会的位置付けが高い印象を受けた。

以上、調査の対象としたのは3つの大学の事例にすぎず、また情報も十分に把握したとは言えない中で、ここで述べたことは私見の域を出ない。しかし、これらの限られたキャリア教育の事例にも、時代や地域の文化が色濃く反映されていることが見て取れたのではないだろうか。キャリア教育を構想する際には、変化する時代や社会の状況を考慮しつつ、いかに大学独自の理念に沿えるかということが重要であるといえる。これをキャリア体系化WGプロジェクトの一環として行った本調査の趣旨に鑑みるならば、「日本型」「京都産業大学型」コーオプ教育プログラムの定義を明確にし、それを既存のキャリア形成支援教育プログラムの体系にどう位置づけるかという議論を深めることが重要であるといえるだろう。大学の理念と社会状況を踏まえて方向性を定め、大学の全システムの歯車が噛み合ってそこへ向けて前進するようなイメージを持って学生のキャリア形成支援を推進する必要がある。

最後に3大学の比較表(図13)を添付しておきたい。ただし、ウェブページは刻々と更新されており、この表で用いたデータは2014年1月掲載のものであることから本文中に言及している2012年に参照した際の数値と異なる場合があることをお断りしたい。また、サイトごとに表示基準はまちまちであり、例えば、学生が就業体験で得る収入についても、全期間の総額を提示している場合もあれば、1回の就業体験で得る金額の場合もあり、また、特

定の学科しか公開していない場合もあるというように厳密な比較は難しい。このように課題を残すものではあるが、日本におけるコーオペ教育普及のヒントが少なから

ず見て取れるのではないかと考え掲載させて頂いた。ご理解の上、参考にして頂ければ有難い。

	ウォータールー(カナダ)	サリー(イギリス)	ドレクセル(アメリカ)
大学設立年/コーオペ教育プログラム導入年	1957年/1957年	1891年/1955年 (設立時より前身となる取組あり)	1891年/1919年
コーオペ教育プログラムの国内での位置づけ	カナダで最初にコーオペを導入した大学のひとつ。モデルプログラムとして100以上の国内大学に普及。	イギリスの先駆的プログラムのひとつ。高い就職率を維持。	アメリカで最も古く最も大規模なプログラムのひとつ。
学部学生数(院生)	約30000人(6100人)	約11000人(4000人)	約14200人(4600人)
学部終了年数(通常/コーオペ)	4年/5年	2年/3年	4年/4年or5年
コーオペ教育の名称	Crop	Professional Training	Crop
コーオペ教育登録生数 or 割合	約17600人	50%以上の学生	約5200人/1年 (90%以上)
就業体験学年	1・2・3・4年次	3年次の1年間 (サンドイッチ方式)	4年コース2年次 5年コース2・3・4年次
コーオペ企業数	約4500	約2300	約1500
コーオペ登録料	641ドル×4or5or6セメ	1100ポンド(1年間)	790ドル×2セメ 4年コース 790ドル×6セメ 5年コース
コーオペ報酬	約37,000ドル〜77,000ドル(全期間)	約14,900ポンド(全期間)(機械工学の例)	約14,500ドル(6か月)
コーオペセンター	Cooperative Education & Career Action	Professional Training and Careers Committee	Drexel's Steinbrigt Career Development Center
コーオペプログラム運営	学部とコーオペセンター協働	学部主体、アナログ的	コーオペセンター主導、オンラインシステム
コーオペ修業	コーオペ学位	成績表に記載	成績表に記載

図13. 3大学の比較表

注

- 1) 京都産業大学キャリア教育支援科目は2013年度で19科目、2014年度にはむすびわざコーオペプログラムの開始に伴って21科目が開講される。
- 2) 20世紀初頭にアメリカで始まった「座学と現場における就業体験を融合」させるコーオペ教育の歴史と定義については、高等教育フォーラム第3号に掲載の田中寧教授の論文「コーオペ教育の歴史と現状、および、日本における展開とその課題」に詳しい。
- 3) 世界コーオペ教育協会WACE (World Association of Cooperative Education) はコーオペ教育の普及と研究を目的として活動を行っている。京都産業大学は2015年に京都で開催されるWACE世界大会のホスト校となっている。
- 4) 調査大学の選択にあたっては、体系化WGのコーディネーターを務めて下さっている本学文化学部鬼塚哲郎教授にご助言を頂いた。

参考文献

ウォータールー大学公式サイト <https://uwaterloo.ca/> (accessed 2012.9 and 2014.1)

サリー大学公式サイト <http://www.surrey.ac.uk/> (accessed 2012.9 and 2014.1)

田中寧(2013) コーオペ教育の歴史と現状、および、日本における展開とその課題. 高等教育フォーラム3: pp.9-20

ドレクセル大学公式サイト <http://drexel.edu/> (accessed 2012. 9 and 2014.1)

Co-operative Education Manual-A Guide to Planning and Implementing Co-operative Education Programs in Post-Secondary Institutions- (2000): Canadian Association for Co-operative Education

[http://www.cafce.ca/\\_Library/\\_documents/coopmanual.pdf](http://www.cafce.ca/_Library/_documents/coopmanual.pdf) (accessed 2014. 1)

---

A Case Study Report on the Cooperative Education  
Programs of Three Western Universities  
—As Part of Working Group Project to Reorganize  
KSU Career-formation Support Program—

---

Kayoko NAKANISHI<sup>1</sup>

Kyoto Sangyo University has developed a career-formation support program based on “the concept of integrating students’ on-campus (scholastic) and off-campus (field-based) studies,” and now offers more than 20 related courses. In 2012, the Center of Research and Development for Cooperative Education Committee set up a working group to reorganize the existing courses. The main goal of the reorganization is to enhance the coordination of the program and to produce a leaflet that gives an overview of the whole picture, enabling students to select more appropriate courses and thus form their careers more systematically.

This survey was carried out as part of this project, focusing on the leading cooperative education programs conducted at the following universities: Waterloo in Canada, Surrey in the UK, and Drexel in the US. The topics of investigation include co-op programs and university policy, co-op programs and faculty curriculums, student life and co-op programs, co-op program centers, and others. The information cited in this survey is taken from these universities’ official webpages, which reflect their cultural and social backgrounds, offer the latest hands-on data, and show an effective and interactive way of information-sharing between stakeholders. Therefore, this report can serve as a useful and practical reference in advancing cooperative education programs both at KSU and other Japanese institutions.

**KEYWORDS:** Cooperative Education, Reorganization Project, Western Universities’ Co-op programs

---

2013年11月30日受理

<sup>1</sup> Faculty of Cultural Studies, Center of Research and Development of Cooperative Education, Kyoto Sangyo University



